

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

| | |
|-------|-----------|
| 区 名 | 旭区 |
| 学 校 名 | 大阪市立生江小学校 |
| 学校長名 | 中山 寿男 |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・小学校では、第6学年 17名

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 国語、算数とも大阪市・全国平均を下回る結果となった。
全ての領域で、大阪市や全国の平均を下回る結果となり課題が見られる。
- 平均無回答率は、国語、算数とも大阪市平均を下回り課題が見られる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕大阪市平均・全国平均を下回る結果となった。領域別の結果では、「話すこと・聞くこと」の領域では平均値との差は小さかったが、「書くこと」の領域では16.6ポイント下回っており、大きな課題がある。主体的・対話的で深い学びを追求した国語科の授業について実践を深めているところであるが、話す・聞くことのみならず、書くことについての指導を強化していく必要がある。

〔算数〕

大阪市平均・全国平均を下回る結果となった。領域別の結果では、「データの活用」「変化と関係」の領域では平均値との差は小さかったが、「図形」の領域で12.8ポイント、「測定」の領域で12.1ポイント下回っており、大きな課題がある。それぞれ、算数的な体験活動により理解が深まる領域であるが、日常生活・授業の双方で、より体験活動を増やし、理解を高める必要がある。

質問紙調査より

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目で88.2%が肯定的回答をしており、大阪市・全国平均ともに上回っている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目では「当てはまる」と回答した児童が大阪市・全国平均よりも14ポイント上回り、本校の人権教育の成果が表れている。「普段の授業時間以外に1日当たりどれくらい勉強しますか」の質問には「1時間以上」と答えている児童の割合が全国平均より27.2ポイントも下回っている反面、「普段1日当たりどれくらいの時間テレビゲーム・スマホ等をしますか」の質問に「1時間以上」と答えている割合が全国平均より6.1%、「4時間以上」と答えている児童の割合は13.6%も高く、学力向上・生活指導の両面から課題となっている。

今後の取組(アクションプラン)

- 研究推進委員会や校内研修時に「学力向上授業研修」を実施し、児童の実態を分析しながら授業改善を行っていく。また、学習教材データを効果的に活用したり国語、算数ふり返しプリントを活用したりしながら、基礎基本だけでなく応用力も向上させる。
- 国語では「書くこと」の領域に課題があるため、授業において自分の考えを書く活動に重点的に取り組む。また、家庭学習においても、日記・作文や自由研究などで、書く活動に取り組めるように促していく。
- 算数では、課題のあった「図形」「測定」の領域の授業を中心に、ICT機器による視覚支援に加えて、体験的な活動を重視し、より体感的にわかる指導をしていく。また、習熟度別少人数指導を活用し、よりきめ細やかな個に応じた指導ができるようにしていく。

